

札幌市介護保険事業計画推進委員会（第8期）

第1回事業者調査部会 議事要旨

日 時：令和4年8月29日（月）午後3時30分～午後4時30分
場 所：札幌市役所本庁舎 12階 2号～4号会議室

I 出席者

1 委員

池田委員長（部会長）、瀬戸委員、貞本委員、木浪委員、光崎委員、長崎委員、加藤委員、早坂委員、出田委員、齋藤（ル）委員

2 事務局

石崎高齢福祉課長、栗山介護保険課長、池田事業指導担当課長、足立企画係長、遠藤企画調整担当係長、佐々木認知症支援担当係長、岩井中介護予防担当係長、越後事業指導係長、小林事業者指定担当係長、大山施設指導係長

II 議事次第

1 開会

2 議事

- (1) 部会長の選任について
- (2) 事業者対象調査の項目の検討について

3 閉会

III 議事概要

1 開会

池田事業指導担当課長より委員の出欠状況について報告及び配付資料の確認

2 議事

(1) 部会長の選任について

委員の互選により池田委員長を部会長に選出

(2) 事業者対象調査の項目の検討について

○池田部会長 それでは、早速、議事を進行させていただきます。

次の議題は、事業者対象調査の項目の検討についてでございます。

検討を始める前に、事業者に対する調査項目について、まずは事務局から説明をお願いいたします。

＜遠藤企画調整担当係長より資料に沿って説明＞

○池田部会長 ありがとうございます。

ただいま、事務局からアンケート調査の実施案のご説明がありました。これに基づいて、皆様方からご意見をいただきたいと思えます。なるべくお一人お一人からご意見をいただければと思えます。

資料が膨大で、文字も小さくて、私も見るのが大変なのですがすけれども、資料1のアンケート実施案を踏まえて、資料2と資料3の事業者調査についてご意見をいただきたいと思えます。

訪問系から施設系まで19種類のサービスの事業者調査になりますけれども、まずは、そちらからご意見をいただければと思えます。

かなり分量は多いのですがすけれども、共通する項目も多いということもありますし、あとは、今年度追加したものということで、例えば、感染症であるとか、採用の状況で人数を変更したところもありますので、そういったところも含めてご意見をいただければと思えますが、いかがでしょう。

○加藤委員 北海道認知症グループホーム協会の加藤です。

「職員への対応について」ですけれども、今、各グループホーム事業所で一番苦勞しているのが職員の採用です。職員採用に関して一番経費がかかっている、経営を圧迫しているという実情があります。その中でも、派遣会社に対する報酬や人件費がすごく高いのです。

だから、そこら辺の項目で、例えば、介護報酬に対する人件費の割合、そのうちの派遣会社に対する割合みたいな感じの設問があってもいいのかなと感じました。

○池田部会長 職員募集に関する費用という形になりますか。

○加藤委員 募集プラス派遣会社に支払う金額ですね。

○池田部会長 募集に関しては法人としての経費になりますか。それとも、事業所単体でということ考えられますか。

○加藤委員 私たち協会は、どうしても事業所単体の考え方なのです。だから、答えるところが法人単位なのか、事業所単位なのかによって違うと思うのです。

○池田部会長 分かりました。

その辺り、事務局のお考えはどうでしょうか。今、事業所の議論ではあるのですがすけれども、法人のほうがいいのか、そのやり方についてお考えがあればお願いします。

○事務局（池田事業指導担当課長） 今おっしゃっていただいたように、各事業所では、職員採用の際にかかる経費が非常に経営を圧迫するといえますか、本来であれば職員処遇に回せる部分を採用のほうに回してしまっているということはよく伺っております。

私どもとしても、その実態を把握できれば、今後必要な調整といえますか、国のほうでもいろいろ考えていらっしゃることもあるようですので、参考にさせていただきたいというところがあります。

やはり、支出は事業所単位でされているようなイメージでしょうか。採用の経費が法人全体でというよりも各事業所で支出されているということによろしいのであれば、事業所調査票のほうでどうかなと思えますが、いかがでしょうか。

○池田部会長 いずれにしても、大事なところだと思いますので、事業所ベースで検討していただいてもよろしいですか。

貞本委員、お願いします。

○貞本委員 私のところは、いろいろな業者を通じて採用していますけれども、現場は採用に全く関わっておりません。全部、本部のほうでやっています。

○池田部会長 意見の分かれるところではあるのですけれども、私も、認識としては、どちらかというと、本部といたしますか、法人単位というふうな認識ではあったのです。

いずれにしても、法人としてなら法人として、採用に関してはこのぐらいかかるのだと、それがどれだけ負担になっているのかというのが見えてくるような設問をお考えいただければと思います。

○加藤委員 もっとハローワークを活用できるのか、人材派遣料を安くするのは無理だとしても介護報酬に反映できるものなのかどうか、その結果を生かしてほしいのです。

実は、私どもの協会でもアンケートを行ったのです。まだ集計できていないのですけれども、やはり派遣会社に対するお金が経営をすごく圧迫しているというのが見えてきています。だから、そこら辺を早急に何とかしてほしいというのはあるのです。

○池田部会長 アンケート調査のデータがまとまった後の議論になるのかもしれないのですけども、そこら辺を踏まえて、来年度以降、議論を進めていかれるといいかなと思います。

事務局も想定をして、もし考えられることがあれば、用意しておいてもらえるとありがたいです。

事業所のアンケート項目について、ほかにいかがでしょうか。

○瀬戸委員 老施協の瀬戸です。

資料2の3番の「事業所／医療施設の運営について」の設問項目の中で、個別避難計画作成への協力が一部の事業所となっていますが、一部というのはどこの事業所ですか。全部読めば分かったのかもしれないですが、その下の設問の協力不可の理由や協力するための条件など、赤字で一部と書かれた項目が3つありますので、どの種別が対象なのかを教えてください。

○池田部会長 事務局、お願いします。

○事務局（石崎高齢福祉課長） 高齢福祉課長の石崎でございます。

一部となっているのは、いわゆる入所ではなくて、ケアマネの事業所と地域包括支援センターでございます。

○早坂委員 地域包括支援センターの早坂です。

今の質問に続けて、一部のケアマネのところですが、個別避難計画作成の上の問3-5-3、災害時の受入体制というところがあるのですが、この意味合いはどんな感じになりますか。包括・居宅は事務所しか持っていないので、この受入れ体制というのはどういう意味合いのものを考えていらっしゃるのでしょうか。

○池田部会長 事務局、お願いします。

○事務局（足立企画係長） 高齢福祉課の企画係長の足立と申します。

この受入れについては、実際には入所施設や、場合によっては通所やデイサービスなどといったスペースがある事業者に限って、受入れできるかどうかということだと思います。地域包括支援センターについては、受入れのスペースはないかと思いますが、ここは特に答えていただく必要はないかと思います。

○早坂委員 居宅・包括にもあるのですけれども、これはできないと答えるという捉え方でいいでしょうか。

○事務局（足立企画係長） よろしいかと思います。

○早坂委員 私は、これをやってみたのですけれども、回答に困ったのです。ですから、受入れ体制のどこかに書いていただければいいかなと思いました。

それと、さっきの一部のところの個別避難計画作成への協力というイメージがつかめないのですが、どこに協力すればいいのですか。

○事務局（足立企画係長） 協力については、先行して実施している自治体の意見を見ますと、実際には、ケアマネ事業所に個別避難計画の作成について協力を求めるのですけれども、業務として結構大変で、なかなか協力できないという事業所もあるように聞いています。

ですから、全ての事業所で個別避難計画の作成をしていただけるかどうかということになると、その体制が整っているところに限定されてくると思います。事業者として、現時点でそういった余力があるのか、どういった支援があればお手伝いができるのかということについて聞いてみたいということで入れさせていただいております。

○早坂委員 分かりました。ありがとうございます。

○池田部会長 つまり、回答しやすくしてもらいたいということですね。ですから、該当しない場合には記入しなくて結構ですなどの誘導の文言が必要ですね。

○早坂委員 そうですね。それがあると回答しやすいかなと思いました。

もう1つよろしいですか。

今回、地域包括支援センターで、ケアプランの上限数を書くことになっているのですけれども、このケアプランの上限数と担当件数というのは、同じ意味合いで使っているのかということと、地域包括支援センターには専門職と予防支援の2種類の職員がいるのですけれども、問2-1と問2-2では、ケアプランの上限数を書きなさいというふうになっているのですが、新しくできた問2-3-3の妥当な件数では、括弧が1個しかないのです。これは、私の考えだと、専門職員何件、プランナー何件という書き方になるのかなと思ったのですが、その辺はどんな感じでしょうか。

○池田部会長 ページ数を教えてもらっていいですか。

○早坂委員 21ページです。

○事務局（岩井中介護予防担当係長） 介護保険課の岩井中です。

1点目の、ケアプランの上限数は担当数と同じ意味合いかということですが、基本的に、上限数と担当数は同じという考え方で答えていただければと思います。

2点目の、問2-3-3の妥当な件数ですが、こちらは、早坂委員のおっしゃるとおり、専門職員何件、プランナー何件ということでないで正確な答えにならないという部分がございますので、

こちらは修正をする方向で考えたいと思います。

○早坂委員 ありがとうございます。

○池田部会長 ほかに、いかがでしょうか。

やや細かいところですので、なかなか出づらいかもしれませんけれども、お気づきのところがありましたらお願いします。

私から、採用数に関してですけれども、聞き方を変えておりますよね。以前は、計画どおり採用できているか、できていないかというような聞き方だったと思うのですけれども、今回、それをやめるということになると、これまでとの比較がしづらくなるかなと思うのです。ですから、全く削ってしまうのではなくて、計画どおりか、そうではないのかというところだけは残して、プラス採用人数ということであると、計画どおりなのか、そして、その内訳はどうかというような形で、より状況が見えてくるかなと思いました。

設問数が増えてしまうのはあまりいいことではないのですけれども、その辺りご検討ください。

ほかは、よろしいでしょうか。

○光崎委員 札幌地区連の光崎です。

事業所運営と人材確保の定着化といった部分で1つ要望ですけれども、つい先日も、アンケート調査で、2割から3割の従業員の皆さんから、介護事業所におけるハラスメントの経験や目撃があるというような調査結果が出されていました。

私たちの労働相談からも、サービス業や飲食業、それから、本件に関わるような医療・福祉・介護事業所に勤務する皆さんからの相談も非常に多く寄せられている項目であります。

また、労働基準法に違反するような違法率も高いような実態で働かれている方が非常に多いというような結果が出ています。

また、本年4月からパワハラ防止措置が義務化をされたというのは既にご案内のとおりでありますけれども、そういった観点からも、設問の選択肢の中に、ワークルールの関係やハラスメント研修といった言葉をぜひ入れていただければというような要望でありますので、ご検討のほどをよろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

○池田部会長 ハラスメント防止等への取組状況が見えるような形にさせていただきたいというご意見かと思ひます。その辺り、必要などころかなと思ひますが、事務局、いかがですか。

○事務局（池田事業指導担当課長） 今、ご意見いただきましたとおり、ハラスメントの状況というのは、まさに、私どもも把握したい部分でありますので、ぜひ検討させていただきたいと思ひます。

ありがとうございます。

○池田部会長 よろしくお願ひいたします。

離職等にも関係してくるようなところですので、確かにここは大事ですね。

ほかに、いかがでしょうか。

それでは、事業所関係で忘れていたことがありましたら、後ほどお聞きしたいと思いますので、

先に進めさせていただきます。

次に、法人・団体を対象とする調査についてご意見をお願いいたします。

45ページ以降のところですが、いかがでしょうか。

○瀬戸委員 瀬戸です。

48ページの新しい項目の生産性向上・業務の効率化ですが、選択肢の中に「介護ロボットの活用」とあるのですけれども、最初に見たときに、これだけで皆さん同じものがイメージできるのかと思ったのです。介護のアシストロボットをイメージする人もいれば、見守りをイメージする人もいます。見守りにしても、いわゆるパロというようなものをイメージする人もいれば、離床をしっかりと感知するものもあります。

介護ロボットの活用で、自分が思っているものを法人に入れていないとバツにしそうなので、これはどういうものかという説明を入れるか、幾つか選択肢を増やしたほうがいいかなと思いました。今、事業所はせつかく取り込もうとしているので、逆に、これもいいのかみたいに誘導にもなってくると思うので、そこを考えていただいたほうが答えやすいかなというふうに思いました。

以上です。

○池田部会長 これを入れた意図なども含めて、事務局のほうで少しご説明していただいていいですか。

○事務局（池田事業指導担当課長） 委員のおっしゃるとおり、介護ロボットといいましても幅広く、移乗支援のロボット、見守りのシステムなど、いろいろあると思いますので、少し事例を挙げるなど、選択肢にするのかどうかも含めまして、中身を分かりやすく検討させていただきたいと思います。

○池田部会長 ご検討をよろしくお願いします。

ほかに、いかがでしょうか。

それでは、全体を通して何かご意見がありましたらお願いいたします。

少し時間の余裕もありますので、積極的にご意見をいただければ、次期の計画に生かせるかと思えます。

感染症の聞き方ですが、ある程度分かるところもあるのですけれども、こういう形で聞く予定だということを、もう少し具体的に追加説明をいただいてもよろしいでしょうか。

問3-6-1から問3-6-3までですが、感染症への備え、最も難しい感染症対策、感染症で困っていることというような並びになっておりますけれども、2つ目の最も難しい感染症対策のところ、
「感染症発生時における対策のうち、一番難しいものは何ですか」という聞き方は、若干答えづらいのではないかと思ったのです。

選択肢として、「感染症対策マニュアルの策定」「事業継続計画（BCP）の策定」「衛生用品や個人用防護具（PPE）の確保」云々とあるのですけれども、一番難しいもの、とした意図、あるいは、複数選択でもいいのかもしれないなと思ったのですが、その辺りをお願いいたします。

○事務局（栗山介護保険課長） 介護保険課長の栗山でございます。

感染症といっても、当然、コロナもそうですけれども、インフルエンザなど、いろいろな感染症がございます。そういったものを総合的にどう対応されていくかが課題になってくるのかなと
いうことで、その対応策がどれくらい進んでいるかも含めて、進捗状況を確認する意味で、今回、
問3-6-2を入れさせていただいているところでございます。

「感染症発生時における対策のうち、一番難しいものは何ですか」という設問の意図は、どの
対応の準備が難しいのかを知りたかったわけですがけれども、例えば、コロナなど、もう少し具体的
にイメージできるほうがよろしいということでしょうか。

○池田部会長 策定、用具の確保、職員の確保と、それぞれ異なる側面を聞いているので、一番
といても、それを比較して回答できるのかなと思ったのです。

私もはっきりとした答えは持っていないのですが、ここら辺は大事ですので、なるべく
参考になるような聞き方ができるといいのかなと思ったのです。

○貞本委員 施設でクラスターを経験した者としての意見ですがけれども、まず、難しいところは、
発生したときに応援してもらう人員体制の確保、人の問題ですね。

あとは、施設の問題です。私は、随分長いこと保健所にいたので、医療機関などには換気をど
うするかという話をしていたのですがけれども、老健は換気などは全く考えていないですね。何か
やろうと思っても、病院とは全く違う仕組みになっていて、個別の換気もないという、こんなと
ころでどうやって感染症対策をやるのだと最初はびっくりしたのです。

ですから、そういった人の問題や施設の問題を例示してもらったほうが答えやすいかなと思
います。

あとは、手当の問題です。実際に人に動いてもらうにはお金がかかりますから、それを乗り越
えるにはどうしたらいいか、いつまでも国の補助金があるとは限りませんので、そういうことを
例示して聞いていただいたほうが答えやすいかなと思います。

○池田部会長 困ったことが数字や回答に出てくるような、見えてくるような形がいいというこ
とですね。どういうニーズがあって、事業者にどういう支援があればうまくいくのかというこ
ろでしょうか。

○貞本委員 介護の人が不足するわけですがけれども、そういうときにどういう応援をもらえるか、
医療従事者などをどう確保していただけるか、介護、看護師、それ以外の医療従事者という形で、
どこで困難を感じたかというのをお聞きしていただければと思います。

あとは、詳しいことを調べると、今度、国で、施設の換気がどうのこうのという話が出てき
ていますがけれども、施設内でそういうことがきちんとできているのか、できていないのか、施設上
の問題、人の体制の問題など、少し例示して聞いていただいたほうが分かりやすいかなと思
います。

○池田部会長 事務局のほうはどうですか。

○事務局(栗山介護保険課長) 先ほどのご指摘ですが、具体的にイメージできるように例示す
る、あるいは、困っていることを複数回答にするとか、何か工夫を検討してみたいと思
います。

○池田部会長 全体を通して、ほかにはいかがでしょうか。

今度の部会は10月3日ですが、そのときにも少し修正は可能でしょうか。

○事務局（遠藤企画調整担当係長） そのときには、おおむね最終形に近い形でご確認をお願いすることを考えておりますけれども、そこで重要なご指摘をいただいた場合には、できる範囲で反映をしてみたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○池田部会長 それまでに気がついたところへの対応はどうなるでしょうか。

○事務局（遠藤企画調整担当係長） 今日の部会の後にお気づきの点がございましたら、事務局にご連絡いただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○池田部会長 分かりました。

今、出てこないようであれば、まだ修正の余地はあるということですので、今日はこれで閉じたいと思います。

3 閉会

池田部会長より、第1回事業者調査部会の閉会を宣言した。